

## みどころ：丸太柱

螺旋階段の丸太柱は、開智学校洋館が建設される以前、授業が行われていた近くの仏教寺院「全久院」にあったものである。螺旋階段は伝統的な建築物にはなく、開智学校の建築家も馴染みがなかった。そのため、一段一段の幅が狭く、先生方が使えるのは階段の一番外側だけで、しかも何十年も使って磨り減っている。

全久院は、1726年から松本を治めていた戸田家の菩提寺であった。1868年の明治維新後、仏教を外来物とみなし、全国的に仏教を撲滅しようとする動きが起こった。寺の土地は没収され、鐘や仏像は溶かされ、僧侶は他の職業に就くことを余儀なくされた。松本城最後の城主となった戸田光則（1828-1892）は全久院を廃寺とし、その境内を小学校に転用した。